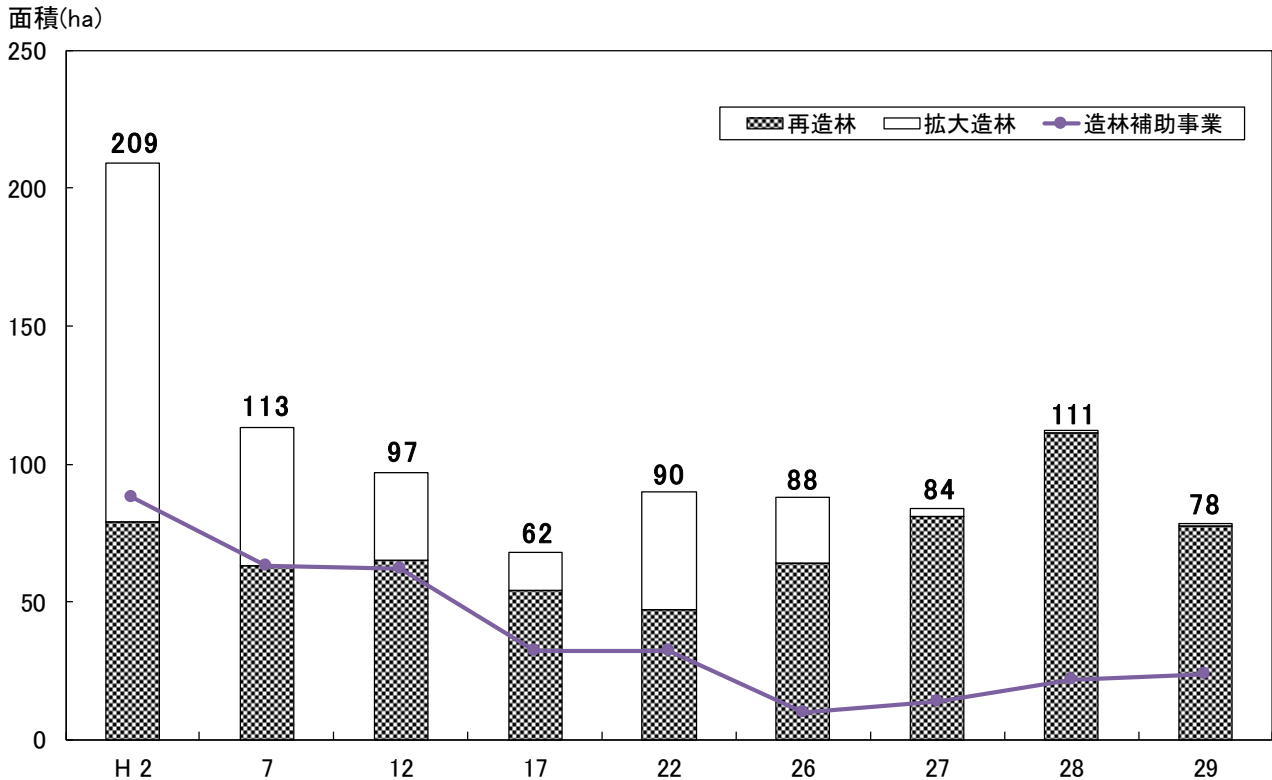


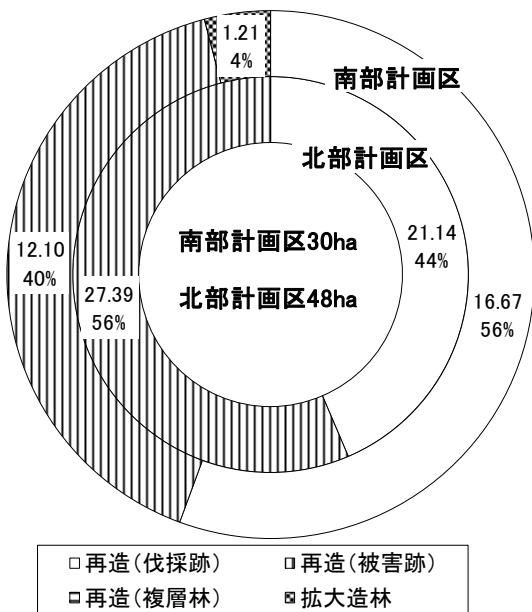
2. 森林の整備

(1) 人工造林

—造林面積は低調—



造林種別人工造林面積地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、28年度まで増加傾向であったが、29年度は再び減少し約78haとなった。

また、その内、補助造林面積は約24haであり、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は約30%となっている。

造林種別の内訳は、被害林跡地等への再造林が前年度より34ha減少し約77haとなっており、拡大造林は増減なく約1haとなっている。

29年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より35ha減の約48haとなっており、すべて再造林となっている。

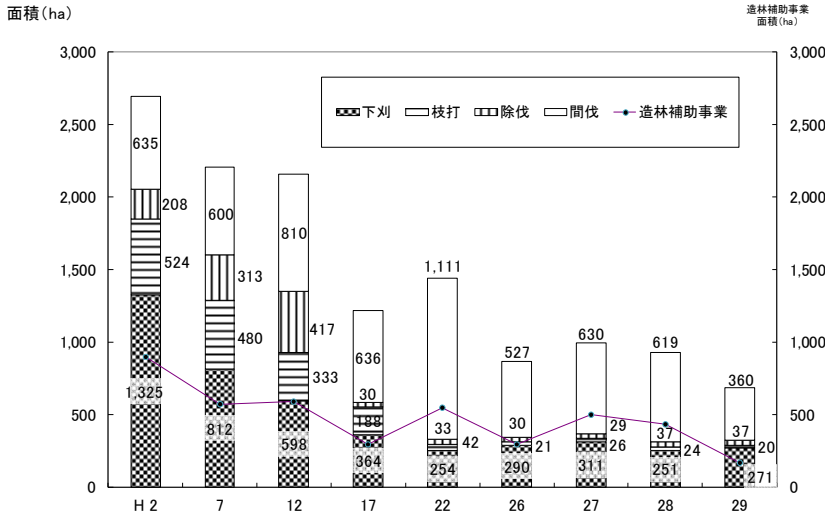
一方、南部計画区は前年度より2ha増の約30haであり、北部計画区と同様に再造林がほとんどを占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが42% (33ha)、ヒノキ6% (4ha)、マツ22% (17ha)、広葉樹31% (24ha)となっており、前年度に比べスギの割合が約10%、広葉樹の割合が約2%増加したのに対し、ヒノキとマツの割合が約10%減少している。

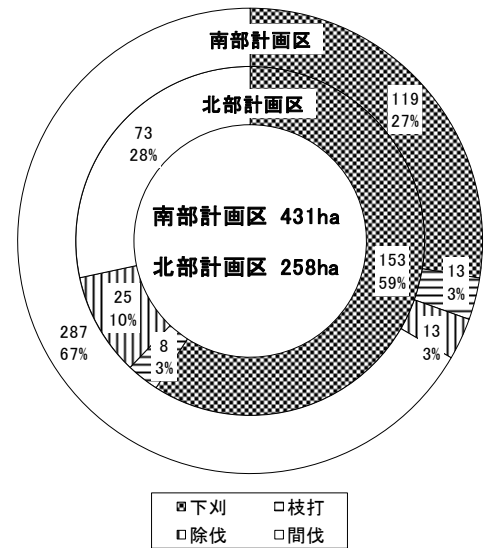
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は減少傾向—

間伐・保育面積の推移

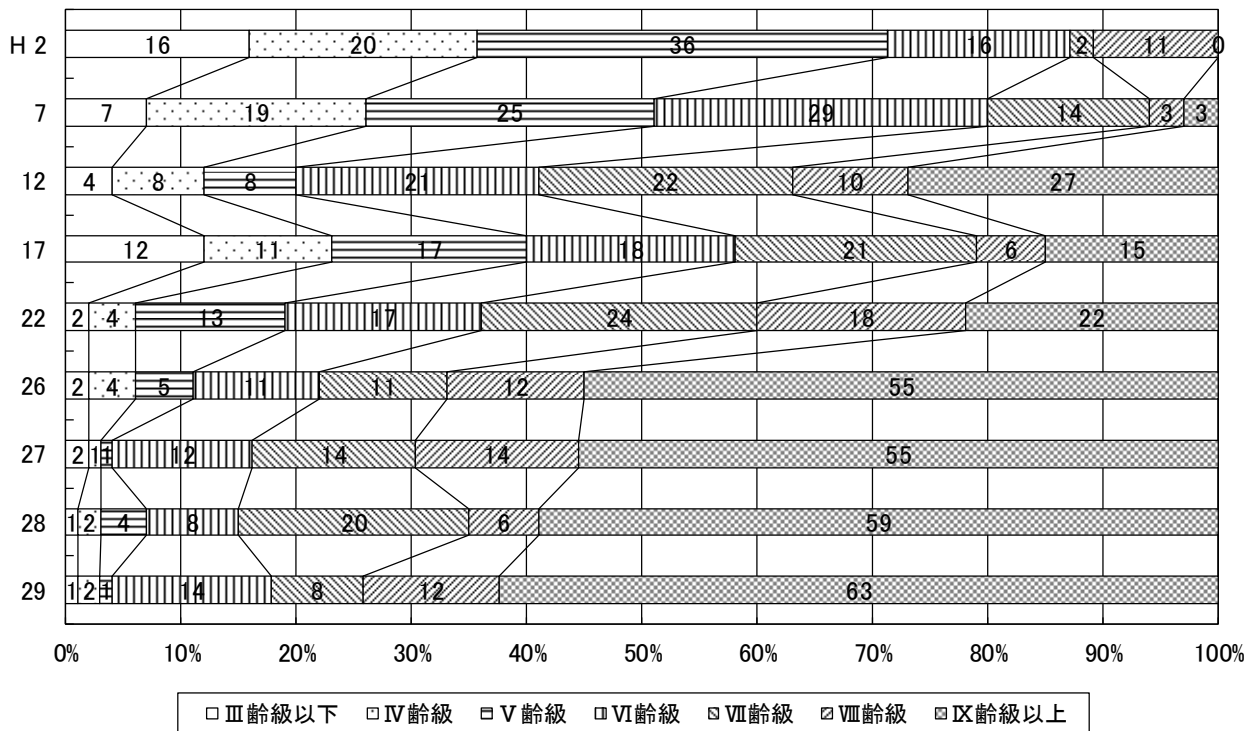


地域別間伐・保育面積 (ha)



単位：%

間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、17年度まで大幅に減少した後、22年度に1,111haまで回復したが、再び25年度に減少した。しかしながら、27年度にかけて再び増加し、28年度は微減にとどまった。

29年度については、前年度から242ha減少し689haとなった。種類別には、除間伐が前年度から259ha減少し397ha、下刈は20ha増加し271haとなり、間伐は大幅に減少したものの、保育は微増となっている。

地域別傾向としては、北部計画区では前年度から13ha増加し258haとなり、南部計画区は前年度から268ha減少し431haとなっている。種類別内訳については、北部計画区が間伐約28%・下刈約59%に対して、南部計画区では間伐67%・下刈27%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、29年度は前年度と同様にⅨ齢級以上の割合が増加し約63%となり、Ⅷ齢級以上で見ると間伐全体の約75%を占めるなど高齢級化が進行している。